

原職奪還へ事業部の強化を



87. 10. 15
No. 2678

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五六（公衆）〇四七二二二七二〇七

第12回定期大会の成功に向け

すべての組合員のみなさん！
動労千葉は、二波のストライキ、順法闘争に対する二八名の解雇をはじめとする不当極まる大量処分をはねのけ、物品販売、共同購入会、カナメ商事などを中心に、事業部運動を展開し、自らの生活費は自らの手でかちとるべく奮闘しています。この壮大な事業部運動をさらに職場地域、全国に拡大し、財政基盤の確立をかちとり、「4・1分割・民営化」体制粉碎へ全力で闘いぬくため今定期大会を成功させよう。

敵の攻撃を真正面で受けとめ
闘いぬく以外勝利はない

「国鉄分割・民営化」阻止を掲げて闘いぬいたわれわれ動労千葉の第一波・二波ストライキに対し、日帝・中曽根・当局は、報復として二八名の解雇をはじめ多くの不当処分攻撃をかけてきました。

敵・権力は、この不当処分攻撃をとおして、動労千葉の組織の団結を破壊し、財政を破綻に追い込み、動労千葉の自滅を狙って無茶苦茶な攻撃をかけてきたのです。これは、労働運動としてまったくあたりまえの動労千葉の闘う路線を、破局的な状況を呈するJRの現体制下において許容することができなくなったからであります。加えて、中曽根・当局・革マル松崎にとって「国鉄」解体後の展望が全く無いが故に、労働者に全ての責任を転嫁し、自らの施策の「正当性」をアピールする以外に生き延びる方策が無いからなのです。この敵の攻撃を真正面から受け止め、この攻撃と対決して闘いぬく以外にわれわれ動労千葉の勝利の道もないのです。

事業部の強化を図り、
自らの生活費は自ら獲得する

反動中曽根・当局・革マル松崎は、強制出向という脅しをかけ労働者に屈服を迫り、これに反対する労働者に対し差別・選別の動向を強めています。

「出向」させるには、労働者の同意が必要であり、拒否したからといって差別・選別することは論外であります。権力側は、革マル松崎を先兵として、現体制を維持するために制定したブルジョア法さえも無視して強行してきているのです。敵の狙いは明確です。

動労千葉の団結を破壊し、労働者を隷属せしめ

んだがために最後の悪あがきをしているのです。動労千葉の財政破綻をとおして動労千葉の解体を目論んでいます。われわれは絶対に負けることは許されません。民間の多くの争議団組合の苦闘を自らのものとし、学び、実践して初めて一九八〇年から九〇年代へかけての労働運動の道が切り拓かれるのです。

解雇者の原職復帰へむけ
事業部運動の強化・拡大を

動労千葉は、自らの生活費は自らの手で獲得することを目標に事業部の活動を強化し闘いぬいています。

いま、事業部の活動は、協販部の夏・冬二回の物品販売、房総勤労者共同購入の会の日常販売、カナメ商事の損保代理店と幅広く取り組んでいます。これらの運動を発展させる原点は、組合員・家族および支持者の圧倒的な協力が得られてこそ成功するものであります。

また、この運動をとおして解雇されたすべての仲間が原職復帰をかちとるべく不屈に闘いぬき、必ずハンドドル、ハンマーを奪還する決意を固めています。

すべての組合員のみなさん！
第十二回大会の成功をかちとり、闘う事業部運動の拡大をかちとり、動労千葉の前進をかちとるうではありませんか。

第9回 団結祭典
日時 11月3日、9時30分
場所 千葉市弁天小学校